

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会
令和4年度（2022年度）本部事業報告書

1 法人本部の事業

理事会の開催

令和4年度（2022年度）定時第1回理事会

- 1, 日時 令和4年（2022年）5月15日（日曜）・13時30分開会
- 2, 場所 熊本県身障者福祉センター 2階 訓練室
- 3, 出席者 理事8名 ・ 監事 2名
- 4, 決議事項

第1号議案 令和3年度事業報告及び計算書類等の承認について

第2号議案 事業監査報告の承認について

第3号議案 定時評議員会開催について

第4号議案 諸規定の改正について

第5号議案 第77回 日視連全国福祉大会について

第6号議案 その他

報告事項

①社会福祉充実残額について

②会長及び常務理事の職務執行状況について

③職員採用について（あいEYE）

令和4年度（2022年度）定時第2回理事会

- 1, 日時 令和5年 3月12日（日曜）・13時30分開会
- 2, 場所 熊本県身障者福祉センター 2階 訓練室
- 3, 出席者 理事 8名 ・ 監事 1名
- 4, 決議事項

第1号議案 令和4年度（2022年度）補正予算について

第2号議案 令和5年（2023年度）度事業計画について

第3号議案 令和5年度（2023年度）予算について

第4号議案 令和5年度（2023年度）第1回評議員会開催について

第5号議案 諸規定の整備及び改正について

- 報告事項**
- ①会長専決及び常務理事の職務執行状況の報告
 - ②令和5年度（2023年度）理事・監事の改選について
 - ③第77回 日視連全国大会（熊本大会）について
 - ④職員人事について

評議員会の開催

令和4年度（2022年度）定時第1回評議員会

- 1, 日時 令和4年 4月10日（日曜）・13時30分開会
- 2, 場所 熊本県身体障がい者福祉センター 2階 会議室
- 3, 出席者 評議員11名 ・ 監事 0名 理事 6名
- 4, 決議事項

第1号議案 令和3年度（2021年度）補正予算について

第2号議案 令和4年度（2022年度）事業計画について

第3号議案 令和4年度（2022年度）予算について

第4号議案 役員報酬規程等改正について

- 報告事項**
- ①職員人事（点図、あいEYE）について
 - ②令和3年度（2021年度）社会福祉法人監査報告
 - ③会長専決及び常務理事の職務執行状況の報告
 - ④役員会日程説明
 - ⑤県視協歩こう会について

令和4年度（2022年度）第2回評議員会

- 1, 日時 令和4年 6月 5日（日曜）・13時30分開会
- 2, 場所 熊本県身体障がい者福祉センター 2階 会議室
- 3, 出席者 評議員12名 ・ 監事 2名 理事 7名

4. 決議事項

第1号議案 令和3年度事業報告及び計算書類等の承認・事業監査報告の承認について

第2号議案 第77回 日視連全国大会（熊本大会）について

報告事項 ①社会福祉充実残額について

監査会の開催

1, 日時 令和4年 4月23日（土曜日）13時30分より

2, 場所 熊本県点字図書館 感覚訓練室

3, 出席者 監事 服部法義、山下雄二

立会人 会長 村上芳継、常務理事 篠原静雄、

事務局 窪井良子、松村千津代、吉村浩子

2. 熊本県障害者社会参加総合推進事業の受託実施

(1) ア 熊本県視覚障害者生活訓練事業A

一般教養講座をはじめ、職業訓練、情報機器体験講座、また、女性を中心とした料理教室を開催し、視覚障がい者の社会生活を促進する内容で実施した。今年度もコロナ禍により開催会場の都合により回数が減少したが昨年度より8回の増。開催回数は、24回。実受講者62名。延べ受講者100名。この他参加者は、講師を含め年間20名のボランティアの協力を得て開催出来た。

イ 熊本県視覚障害者生活訓練事業B

県内在住の中途の視覚障害者を対象に、カウンセリングを中心として、生活行動訓練を視覚障がい者歩行訓練等事業とで実施した。今年度も、コロナ禍によりコミュニケーション訓練や情報収集機器の相談等訓練を開催

した。コミュニケーション訓練など開催回数は35回。実施受講者12名。延べ実施時間70時間であった。

(2) 点訳・朗読（音訳）奉仕員ステップアップ事業

当会主催の点訳・朗読（音訳）奉仕員養成講座を修了された方を対象に専門技術の向上や、視覚障害者へのより一層の理解、協力を経るために点訳2回、音訳2回、合同研修1回 計5回を実施し、県内外で開催されたオンライン研修会等にも参加した。点訳2回・音訳1回年間参加人員は178名であった。また、音訳者2名を指導員養成講座（九州ブロック）・資格認定講座2名の方に受講してもらい、1名が認定された。

(3) 点字による情報ネットワーク事業

日視連が発行する、点字JBニュースのダウン、印刷、閲覧、県内各地域の推進員、1施設へ毎日発送（12部）。点字データのインターネット解放により、個人への情報の提供が常時可能となった。JBニュースネット配信者は23名。

3. 熊本市視覚障害者生活訓練事業の受託実施

(1) ア パソコン講座、一般教養講座、情報機器体験講座、職業訓練、手芸などの講座を開催し実施した。開催回数37回。実受講者数22名、述べ受講者146名。年間ボランティア数77名の協力を得た。

イ 市内在住の視覚障がい者を対象に、カウンセリングを中心にして、生活行動訓練を実施した。点字指導、歩行訓練など実受講者18名であった。開催回数は、53回。延べ実施時間数106時間であった。

(2) 点訳朗読（音訳）奉仕員養成事業

視覚障がい者の社会参加及び自立の促進に必要な意思疎通支援を行う点訳・朗読（音訳）奉仕員を養成した。今年度点訳者は当初13名、修了者は11名であった。朗読（音訳者）は、当初24名、修了者は、14名であった。

4. 点字版、録音版広報誌の製作、発送業務の受託、実施

(1) 熊本県より発行分の受託業務

「県からのたより」年5回の委託を受け、印刷、発送に努めた。発送契約は、希望者点字版335部。録音版210部。点字発行が年々減っている。

- (2) 熊本市広報誌 (点字版84部・音声版104部) 毎月
- (3) 八代市広報誌(点字版) 毎月 1回発行、発送 14部。
- (4) 宇土市広報誌(音声版) 毎月 1回発行、発送 8部。
- (5) その他の点字資料の製作を受託、実施した。

① 熊本県・市行政資料(健康福祉部関係、人事委員関係、教育委員会関係、選挙関係)などの点字版製作を受託、実施した。

② その他、外部依頼による会議資料等の製作、印刷を行なった。

5. パソコンサポートサービスの実施

「パソコンボランティア熊本」に視覚障がい者生活訓練で多大の支援を頂いた。今年度は、派遣要請はなかったが、スマートフォンの相談が増加し、体験を通じて個別相談に応じてくれた。今後もICTの支援を行うようお願いした。

社会福祉法人熊本県視覚障がい者福祉協会
令和4年度 熊本県点字図書館事業報告書

全国視覚障害者情報提供施設協会に加盟する当館は、情報弱者である視覚障がい者にサピエ図書館でのオンラインリクエストサービスを積極的に行った。

また、障害者読書環境整備推進法【読書バリアフリー法】が施行される中、公共図書館等とも連携を取り視覚障がい者(利用者)に対して、読書環境及び情報、生活、文化の提供施設として蔵書を増やし提供し、眼科医会等との連携を実施した。高齢者の視覚障がい者や中途失明者の利用者ニーズに対応するため、一層のサービス向上に努める他、正確な情報、資料の収集と提供を行い新型コロナウイルス感染防止には積極的に取組みを行い、オンラインでの職員のスキルアップ、各地域での点訳・音訳指導者の育成や、奉仕員の増員強化並びに奉仕者全体のステップアップを図り、正確な点字図書・録音図書を製作し提供した。

社会の動向に注目しながら、情報の収集、提供を図るばかりでなく、利用者への情報支援機器の取り扱いのサービスの向上に努め、災害時での情報提供の強化に取り組む必要性に 대응するため、各関係方面との連携、協調を図り、実態の調査研究を進め、その具体化に向けた検討を図り図書館サービスをとおして次の事業を実施した。

1, 蔵書の製作と充実に努めた。(別紙資料1, 2, 3参照)

(1) 点字図書 今年度 176タイトル 594冊

(昨年度146タイトル 485冊)が増加した。

内訳 厚生労働省委託図書 49タイトル(昨年度 34)

自館点訳図書 127タイトル(昨年度113)

累計蔵書数は、10,352(昨年度10,176)タイトル
34,009(昨年度33,415)冊である。

(2) 録音図書(カセットテープ)

累計蔵書数は、8,684タイトル、
48,884巻である。

(3) デイジー図書(CD)の製作では、345タイトルが蔵書された。
(昨年度 330タイトル)

内訳 厚生労働省 33タイトル(昨年度 34)

自館音訳図書 312タイトル(昨年度287)

寄贈図書 0タイトル(昨年度 9)

(マンガデイジー7タイトル、シネマデイジー1タイトル含む)

累計蔵書数は、9,978タイトル(昨年度9,633)である。

点訳・録音増加図書の殆どが、点訳・音訳ボランティアの協力によって製作、校正、編集されている。

今年度サピエ図書館に登録した点字図書データは、127タイトル
録音図書は、296タイトル（テキストデージー26）であった。

- (4) 点字雑誌については、季刊1種（らしんばん）。
月刊情報雑誌 3種（点字ジャーナル・ライフ&ライフ・信仰）。
週刊雑誌1種（点字毎日）で読者のニーズに対応した。
- (5) 録音雑誌については、月刊情報雑誌他、週刊雑誌、年間数回発行されるものを含めデージー雑誌の貸出しを行った。
主なCD雑誌は、以下のとおりである。（にっぺんデジーマガジン・医道の日本・選択・フォーサイト・文芸春秋・毎日ライフ・NHKきょうの健康・爽快・週刊現代・趣味の園芸・俳壇・カエル・新潮・世界・ラジオ深夜便等）。

2. 貸出業務の拡大と充実を図った。（別紙資料4, 5, 6, 7参照）

- (1) 点字図書の年間延べ貸し出し数は、45,744冊
(昨年度54,047冊)
録音図書（カセットテープ）の年間延べ貸し出し数は、4,874巻
(昨年度3,329巻)
CD図書の延べ貸し出し数は、37,775枚
(昨年度38,884枚)
- (2) 実利用者数は点字図書98名。録音図書テープ図書8名。
デージー図書471名であった。
- (3) 熊本県立盲学校に、点字児童図書を長期に貸出し、児童生徒の利用の拡大を図っている。40タイトル、43冊。
- (4) 全国相互貸借による貸出しを行なった。
具体的には、「サピエ図書館」の活用により検索、貸出しを実施した。
- ① 利用者自身が、より早く情報収集できるようこのシステムを活用、参加することを啓発し、QOLが高まるように努めた。今年度7名が新規登録（累計210名がサピエ会員）
 - ② 図書館と利用者とを結ぶ、メーリングリストを有効に活用し、情報の収集と発信を可能とする事で、社会参加の一助となるよう努めた。
 - ③ パソコンボランティア熊本の協力を得て、ICT 利用者の増員へ努めた。新規申込者6名であった。
- (5) 新規の利用登録者を増やすため、各関係機関との連携を強化し、

利用者の拡大を図った。新規登録者数30名であった。

- (6) 郷土色豊かな点訳図書、録音図書を製作して、地方図書館としての特色を生かすよう努めた。録音図書は6タイトルであった。
- (7) 煩雑する図書貸出を迅速に行うために、年間3回の図書整理を行った。

3. 閲覧状況（別紙資料6参照）

閲覧については、閲覧室が整備されて以来利用者にとって、学習（読書、訓練など）、研修、憩いの場所として有意義に活用された。諸行事等の開催により閲覧者の増加を図っている。今年度は対面読書の利用が延12名であった。

1年間の延べ閲覧者は次のとおりである。

点字図書	237人（昨年度 192人）
	758冊（昨年度 614冊）
録音図書	537人（昨年度 403人）
	967枚（昨年度 725枚）

閲覧室のパソコンにて電子書籍やブレイルメモを利用しての閲覧を介し、サピエ図書館利用へと繋がっている他、パソコン操作やソフトまた、スマートフォンの個人対応は15名。電話でのレファレンスサービスは月約55件、年間約560件の対応を行った。

4. 活発な広報活動を行い利用の拡大を図った

- (1) 「熊点だより」を、熊本県広報誌に寄稿し、新刊図書紹介や団体情報等を掲載し、周知に努めた年5回。
- (2) 図書目録（点字版・墨字版・音声版）を製作し、利用者43名に配布した。また、毎月1回「九視情協最新録音図書案内」の録音版を58件発送した。
- (3) ホームページにて新刊図書案内等を紹介して情報の提供に努めた。
- (4) 県内の、各視覚障がい者団体等との連絡・協調を図り、各種会合や諸行事等へ出席して、広報に努める他、利用者の要望を聞き利用の拡大を図る。（コロナにより中止）
- (5) 社会へ対して、点字図書館活動への理解と協力を深める為に、関係諸機関、団体等が発行する情報誌、機関誌等に、点字図書館の紹介記事の掲載を依頼し、県内巾広く広報に努め、新規利用者の拡大を図った。又、マスメディアの協力により広報活動に努めた。（NHKテレメッセ・NHKラジオ）

- (6) ある企業の協力により、熊本市通町とサンロード新市街のテレビジョンにて啓発活動ビデオとして、視覚障がい者の啓発及び点字図書館・生活訓練のPRに務めた。
- (7) 登録利用者の調査、整理を行い業務の効率化を図った。

5, ボランティアの育成と活動の促進を図った

- (1) 現在活動中のボランティアを対象に、点字図書館主催で、点字、朗読（音訳）研修会を年3回開催し、正確な図書製作のための技術と資質の向上を図った。
- (2) ボランティア団体（グループ）の育成および助成を図った。
「熊本県点訳音訳友の会」他、県内各地域のボランティア団体等の諸行事に参加し、日頃の活動に感謝するとともに育成と活動の促進を図った。（山鹿市・人吉市・合志市・菊陽町）
- (3) 音訳研修会において各デイジーを製作する上で協力できるボランティアの研修会を行う予定であったが、シネマデイジー・漫画デイジー・テキストデイジー研修会が中止となった。
また、点訳図書・録音図書校正員を、61名委嘱して、年1回の研修会を開催し、校正技術の向上を図るとともに、正確な図書製作に協力を得ている。点字校正員32名。触読校正者4名。録音校正員25名である。
- (4) 全視情協が管理する「サピエ図書館」の、図書製作支援（管理、共同制作、読み方調べ情報データベースシステム）を利用した。
- (5) 各市町村や、社会福祉協議会からの広報誌他、点字印刷やデイジー製作・取組等の相談を受ける中、指導員を派遣し、各地域での視覚障害者意思疎通支援者として養成に協力した。山鹿市・合志市・菊陽町。

6, 点字印刷業務

- (1) 熊本県広報誌「県からのたより」を年5回、「熊本市政だより」を年12回、「八代市広報」を年12回、「わたしたちの福祉」を年2回、などの点字印刷業務を受託し、製版、印刷、発送を行った。熊本市議会だより（いちよう）年4回製作発送した。「熊点だより」年5回制作発送した。
- (2) 公共団体、民間団体、個人等の依頼により、点字印刷その他視覚障害者に必要と思われる資料の製作、印刷、発送に努めた。特に行政情報としては、「公務員受験広報」、「新型コロナワクチン接種広報」、「各種選挙広報等」の製作を受託し、製作、印刷発送に努

めた。

(3) 図書目録、各種機関誌他、関係資料の製作、印刷、発送に努めた。

7, 録音製作業務

(1) 録音図書の自館製作については、音訳ボランティアの協力を得て利用者の希望図書を優先して製作した。

(2) 熊本県広報誌録音版、「県からのたより」を年5回、熊本市広報「声の市政だより」を年12回、「宇土市広報」を年12回、「熊点だより、録音版」を年5回、製作、複写、発送した。「熊本市議会だより年4回、「新型コロナワクチン接種広報」、「各種選挙広報等」を製作発送した。

(3) 地域福祉が叫ばれる中、地域で活動しているボランティアグループの協力を得て、広報製作や利用者のデジタル化への推進を広め、視覚障がい者の現状を踏まえ、各種学校・社協での取り組みに、視覚障がい者の協力者及び点訳・音訳奉仕員の派遣を行った。益城町・菊地市・荒尾市・玉名市・山鹿市・合志市・八代市・人吉市・菊陽町。

(4) 公共団体、民間団体、個人等の依頼による音声情報製作を受託し、又、視覚障害者に必要と思われる資料の製作、複写に努めた。音声版への対応は、利用者の要望も多く確実な実績があがった。

(5) その他、月刊、週刊雑誌等の製作、複写、発送に努めた。

8, 関係資料の収集、調査

全国図書目録、他館の図書館だより、「日本の点字図書館」等の資料を収集、調査、研究し図書館サービスの充実に努めた。

又、寄贈された点字書や録音版など利用者に紹介し、貸出を行った。

(1) 視覚障害者に必要と思われる、点字資料を購入、又は貸借により利用者の要望に対応した。特に、郷土色豊かな資料等の対応に努めた。

(2) 利用者からの要望の多い、スマートフォンの使用法を調査研究し操作が困難な方への対応にパソコンボランティア熊本の協力により実施した。

9, 盲人用具の斡旋

(1) 白杖、点字器具一式（点字板、点字用紙、ルーズリーフなど）、音声体温計、音声時計、音声体重計、拡大読書機、ポータブルレコーダー、ブレイルメモ他、盲人用日常生活用具をあっ旋した。

(2) 全国基準で定める補装具での利用者にあった用具を推進し、日常

生活用具では、各市町村での地域生活支援事業の地域格差を無くすよう努めた。(暗所視支援眼鏡県内13か所8市5町)

10、 職員研修会の開催、及び参加

(1) 必要に応じて随時、施設内職員研修会を開催し、職員間の連携を図るとともに、視覚障害者への更生援護の専門技術の向上と、盲人用具や情報機器業務の円滑、充実に努めた。

(2) 日本盲人社会福祉施設協議会(日盲社協)、全国視覚障害者情報提供施設協会(全視情協)の主催による研修会等への参加

5月 音声版選挙公報製作に係る研修会(東京)オンライン 宮本

10月 全視情協大会(大阪市)→ オンライン 篠原・宮本・窪井・二子石

10月 日盲社協大会(東京都)→ オンライン 篠原

(3) 九州視覚障害者情報提供施設協議会(九視情協)主催による職員研修会

4月 館長会議(理事会) 鹿児島県→ オンライン

9月 第36回九視情協大会(鹿児島県)オンライン→窪井・二子石・宮本

11月 九視情協職員研修会 都城市 オンライン 淵上・二子石

12月～1月 福岡視力障害センター(コミュニケーション訓練)淵上

11、 関係諸団体との連絡協調

日盲社協、全視情協、九視情協等、関係諸団体との連絡協調をオンラインより、情報交換を行った。

(1) 盲ろう者に対しては、聴覚障害者情報提供センターと連携を保った。

(2) 県内の相談支援事業所に、視覚障がい者の生活等の相談に対応した。

12、 読み代行、代筆サービス事業の実施

(1) 利用者からの依頼による、普通文字情報をファクスで受信し音声で伝えるサービスを実施した。

また、代筆サービスも行なった。

(2) 地元情報及び、身近な地域生活情報の提供を含め、代読サービスを実施した。

13、 その他の事業

(1) ホームページにより、啓発活動及び情報開示に努めた。また、必要に応じて個別に、パソコン講座と情報機器講座を団体・個別と

随時開催した。

- (2) 「サピエ図書館」へ参加し、パソコン通信により点字・録音データの収集を図るとともに、ダウンロードにより資料の充実を図った。又、利用者の個人加入の広報に努め今年度合せて新規加入者7名であった。現在210名が加入し、活用している。
- (3) 「読み代行サービス」、「熊日新聞拾い読み」事業を実施した。ファックスを利用し、電話で読みあげるサービスをし、22件の依頼があった。
- (4) 音訳グループ『さわらび』の協力を得て、図書館サービスの充実を図り対面読書サービスを実施した。利用者延4名、各2時間、計約8時間。
- (5) 点訳・音訳ボランティアの協力を得て、プライベートサービスを実施し、利用者個人の希望により、点訳・録音図書を製作し要望に対応した。点字図書6タイトル31冊4,169頁。録音図書デージー(CD)96タイトル456:32分であった。テキスト化への依頼19タイトル。テキスト化5タイトル960頁・PDF変換12タイトル2,872頁。
- (6) 利用者と、点訳・音訳奉仕員との交流会を9月予定していたが台風により中止した。
- (7) スマートサイト「みるくまネット」に参加した。
- (8) 新規利用者の拡大を図るとともに、社会への啓発活動及び支援活動として次の事業などに参加協力した。
 - ① ホームページを活用し新刊点字、録音図書の紹介をはじめ催事情報、ボランティア活動、募集情報等を掲載した。
 - ② 県視協団体が、各支部で開催する歩こう会(八代市)は来年度に延期。

その他、行事協力ボランティアを派遣した視覚障がい者の行事は以下のとおりである。

6月	熊本市視覚障がい者福祉協会創立60周年式典・総会 (熊本市民会館シアズホーム夢ホーム)
8月	火の国杯争奪STT大会 中止
11月	熊本県視覚障がい者福祉協会・団体 福祉大会 (熊本テルサホテル)

熊本県点字図書館利用報告書 令和4年度(2022年度)

1. 受入別保有状況

区分	受入別保有状況										現計
	厚生 委員	衛生 委員	寄託 委託	贈与 制	制作 購入	購入	計	現	計	現	
点字図書	T	49	127	0	0	0	0	176	176	0	176
	冊	113	481	0	0	0	0	594	594	0	594
	計	2,805	6,483	294	8	762	10,352	10,352	10,352	0	21,704
録音図書	T	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	9,102	21,022	764	25	2,485	34,009	34,009	34,009	0	68,018
CD図書	T	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	33	312	0	0	0	345	345	345	0	689
C D 図書	T	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	冊	687	6,547	2,743	0	0	9,978	9,978	9,978	0	19,956
	計	687	6,547	2,788	0	0	10,021	10,021	10,021	0	20,042

※一冊CD12タイトル(2タイトル2枚組)

2. 分類別保有状況

区分	分類別保有状況										計		
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	
点字 図書	T	140	487	469	1,035	938	280	107	236	122	6,265	374	10,352
	冊	484	1,240	1,963	2,490	2,897	682	387	675	914	21,812	645	34,009
	計	66	562	500	654	500	216	61	237	82	5,588	0	8,684
録音 図書	T	398	2,895	4,067	3,678	3,272	852	294	1,159	396	31,875	0	48,694
	冊	123	674	740	893	787	190	110	531	30	6,782	98	9,978
	計	123	715	740	893	787	190	110	531	30	6,784	98	10,021

3. 部門別保有状況

区分	部門別保有状況										計
	教養	学術	児童	その他	計	教養	学術	児童	その他	計	
種類	数量	2,282	938	6,501	621	10,352	2,124	599	5,835	126	8,684
	冊	7,079	2,807	22,487	1,636	34,009	11,891	3,272	33,034	687	48,884
	計	2,282	938	6,501	621	10,352	2,124	599	5,835	126	8,684

区分	C D 図書			計
	教養	学術	児童	
種類	2,597	767	6,320	9,684
数量	2,608	707	6,322	10,021

4. 点字図書及び録音図書の利用状況(コンテンツ利用者含む)

区分	実利用者数	延利用者数	延貸出数	貸出タイトル数
点字図書	98人	13,658人	45,744冊	11,249 T
録音図書	8人	139人	4,874巻	766 T
CD図書	471人	61,467人	37,775枚	37,522 T

5. 点字図書及び録音図書の貸出先の状況(コンテンツ利用者含む)

区分	貸出対象				貸出地域	
	身体 障害者	他の 点字図書館	の 身障者 福祉センター等	貸出 数	県内	県外
点字図書	T	10,280	285	684	555	10,694
	冊	42,458	982	2,304	1,813	43,931
録音図書	T	697	41	28	697	69
	巻	4,500	220	154	4,500	374
CD図書	T	29,408	6,083	2,031	11,955	25,567
	巻	29,657	6,087	2,031	12,204	25,571

6. 閲覧状況

区分	点字図書	録音図書
実人員	48	82
延人員	237	537
冊(巻)数	758	967

7. 貸出状況(コンテンツ利用者含む)

区分	点字図書		録音図書		CD図書	
	貸出 冊	延 冊	貸出 冊	延 冊	貸出 冊	延 冊
個人	T	10,280	T	697	T	29,408
	冊	42,458	冊	4,500	冊	29,657
施設	T	929	T	69	T	8,114
	冊	3,243	冊	374	冊	8,118
学校	T	40	T	0	T	0
	冊	43	冊	0	冊	0
合計	T	11,249	T	766	T	37,522
	冊	45,744	冊	4,874	冊	37,775

令和4年度 あいEYEワークセンター 事業報告

1 運営の方針

- ・ 県内視覚障がい者の「働きたい」を応援、支援する。
- ・ 県内視覚障がい者の仲間づくりの場、生きがいを得る場、交流の場、情報交換の場を提供する。

2 利用者数

(1) 在籍数の推移

令和4年度

4月：20人（7月に新規利用者 1人、9月新規利用者 1人）

3月末：20人（一般就労のため退所 1人、他事業所通所のため退所 1人）

(2) 平均利用者数（月～土曜日）

令和4年度 8.8人

(3) 業務ごとの利用者数

あはき業務 4～5人

軽作業業務 15～16人（退所者を含む）

3 活動内容

(1) あはき業務

- ・ 治療院業務・療養費払いによる訪問治療
- ・ 県庁での施術（月2回の予定だったが、コロナ感染防止対策のため、7月中旬より8月末、1月中旬より2月上旬まで中断）

(2) 軽作業

①受注作業（定期的）・・・

週1回：フルーツキャップ折り・「リビング熊本新聞」チラシ折り込み作業

月1回：j:com封入作業・ジャンプ（JP）封入作業

②受注作業（不定期）・・・紙バッグ取っ手付け、他

③点字紙再生製品・・・ポチ袋・封筒、他

④点字関連作業・・・点訳・点字印刷・発送作業など

⑤麺販売

⑥書き損じ葉書依頼状発送作業、書き損じ葉書計数作業

4 職員配置

管理者	非常勤	1人（職業指導員兼務）
サービス管理責任者	常勤	1人
職業指導員	常勤	1人

生活支援員	非常勤	2人
	常勤	2人（うち、1人は調理員兼務）
目標工賃達成指導員	非常勤	1人
	常勤	1人
事務職員	常勤	1人

5 事業所行事等

- (1) 避難訓練(9月・3月)
- (2) 他事業所、及び、個人からの見学相談受入
- (3) 尚絅大学より、職場実習受け入れ
- (4) 利用者レクレーション「お楽しみ会」年末12月22, 23日実施
- (5) コロナ感染予防のための取り組み
 - ① 検温、換気、マスク着用の徹底、事業所内共有部分の消毒
 - ② 手指消毒（入館時、給食前など）
 - ③ 食堂、作業室の机の上にアクリル板設置
 - ④ 職員の抗原検査（週1回）
 - ⑤ 熊本県のリスクレベル5（厳戒警報）時の通所者の人数制限

熊本県視覚障がい者福祉協会・団体（社会福祉事業）

令和4年度 事業実績報告書

1 同行援護従業者養成研修事業

今年度は感染対策を十分に取りながら、一般課程と応用課程両方を実施することができた。一般課程は令和4年6月17～19日の3日間、講義と実技を交えて実施した。実技において、電車の乗降は熊本市交通局、エスカレーターの乗降はイオン熊本中央店、買い物実習はダイレックス長嶺店の協力をいただき、講師の見守りの元安全に行うことができた。

応用課程は令和4年7月14、15日の2日間講義と、実技においてはJR熊本駅に移動し、切符の購入から改札を通り新水前寺駅まで実際に乗車する、より実践的な実習も行うことができた。

一般課程は11名、応用課程は6名の方が受講し、全員修了することができた。

2. 歩行訓練指導等事業

- (1) 歩行訓練回数 142回
- (2) 歩行訓練受講者数 28名
- (3) 相談件数 202件

今年度も新型コロナウイルスの影響で訓練受講者からの延期やキャンセルなどもあったが、訓練回数や受講者数は、昨年度とあまり変わらない依頼があった。また、相談件数も昨年度より1割減であったが、医療機関から紹介されて来られた方も増え、今後の日常生活に対する不安や進学・就労の相談が多かった。

歩行訓練の必要性は、当事者のみならず家族や周りで支援する人にとっても大事なものであり、歩行技術の習得だけでなく、同行援護サービスなど社会資源やサービスのことを知ることができる。歩行訓練士という視覚障害リハビリテーションの専門家が対応することで悩みや困りごとにも相談ができるという精神的サポートにもつながり、当事者をサポートする家族の負担感軽減に大いに貢献ができているという声が少なくない。歩行訓練が視覚障害児・者のQOLの向上の一助となっていることが理解されてきたのではないだろうか。

(4) 主な会議・研修会など

- ・日本歩行訓練士会研修会（6月・12月）
- ・九州歩行訓練士会研修会（6月・12月）
- ・視覚障害リハビリテーション研究発表大会名古屋大会（7月）

熊本県視覚障がい者福祉協会・団体（公益事業）
令和4年度 団体連絡助成等事業実績報告書

- 1 組織の拡充、強化促進
 - ・会員の加入促進の呼びかけ（あはき協議会、熊本市視障協、点字図書館、盲学校）
 - ・各地区総会への出席
 - ・福祉大会の実施
 - ・会員向け機関紙「くまもと県視協だより」の発行
- 2 福祉対策の推進
 - ・KDF全体会、総会
 - ・「障がい当事者、家族団体との意見交換会に代わる御意見・要望書」の提出（熊本県）
 - ・下記のアンケート調査に協力
 - ◇「視覚障害者の生活実態と外出先でのトイレ利用状況に関する調査」（TOTO株式会社UDグループ）
 - ◇「失明の可能性の告知を受けた人の早期相談支援体制の構築に向けた調査研究」（日視連）
- 3 視覚障がい者の移動保証対策の推進
 - ・「信GO」体験会の実施
 - ・唐人町通りみちづくりワークショップへの参加協力
- 4 職業対策の取り組み
 - ・あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師厚生労働大臣免許保有証の交付申請手続き
- 5 保健、体育、文化向上への対策及び推進
 - ・令和4年度歩こう会（八代）→次年度へ延期
 - ・会員向け機関紙「くまもと県視協だより」での文芸作品発表
 - ・Eスポーツ体験会（青年部）
- 6 関係諸団体との連携強調
 - ・身障連理事会、評議員会への出席
 - ・日視連主催行事への参加
 - ◇第75回全国視覚障害者福祉大会（名古屋大会）
 - ◇第68回全国視覚障害女性研修大会（福島大会）
 - ◇第68回全国視覚障害青年研修大会（福岡県大会）
 - ◇弱視部会 オンライン意見交換会参加

- ・日盲委を通してウクライナ視覚障がい者支援寄付金への協力
- ・九盲連主催研修会（青年部、女性部、あはき）や理事会への参加
 - ◇九盲福祉大会
 - 第76回九州盲人福祉大会（佐賀県大会）
 - ◇九盲青年
 - 第34回九州盲青年研修（福岡県）大会
 - ◇九盲女性
 - 第54回九州盲女性指導者研修会（北九州）
 - ◇九盲あはき
 - 第35回九盲連あはき研修会（鹿児島大会）
- ・盲学校の行事への出席→今年度は臨席なし
- ・障がい者大会への後援協力
 - ◇第15回火の国杯争奪九州卓球バレー大会
 - ◇障がい者フライングディスク指導者養成講習会（二種）」
 - ◇第11回火の国杯争奪九州障がい者オセロ大会
 - ◇第21回くまもと障がい者スポーツ大会

7 役員活動及び渉外活動

令和4年

- | | |
|-------|--|
| 4月24日 | 令和4年度歩こう会（八代）→中止 |
| 5月14日 | 第59回九州視覚障害者 GSB 大会（長崎県）→中止 |
| 5月22日 | 第21回くまもと障がい者スポーツ大会
→村上会長開会式臨席 |
| 5月16日 | 九盲連 GSB 大会（鹿児島県）→中止 |
| 5月29日 | 県視協女性部定期総会→村上会長臨席 |
| 5月31日 | 第75回全国視覚障害者福祉大会（名古屋大会）→村上会長
オンライン参加 |
| 6月4日 | 弱視部会第3回オンライン意見交換会→黒木弱視部長参加 |
| 6月5日 | 法人評議員会 |
| 6月6日 | 点訳音訳奉仕員養成講座開講式→村上会長臨席 |
| 6月10日 | 熊本県障がい者スポーツ第2回運営委員会→篠原常務
理事出席 |
| 6月19日 | 市視障協60周年記念式典・総会→村上会長、篠原常務理
事出席 |
| 6月28日 | 身障連評議員会→前田副会長、篠原常務理事出席 |
| 7月3日 | 九盲連臨時理事会電話会議→村上会長 |
| 7月10日 | 地区長部長会 |
| 7月14日 | 同行援護従業者養成講座開講式→村上会長臨席 |
| 7月15日 | 同行援護従業者養成講座閉講式→篠原常務理事臨席 |
| 7月31日 | 第54回九州盲女性指導者研修会（北九州）→東女性部長オ
ンライン参加 |

- 8月 6日 弱視部会令和4年度定期総会→黒木弱視部長参加
- 8月 7日 ・熊本県あはき部定期総会→村上会長臨席
・第77回全国視覚障害者福祉大会（熊本大会）第1回執行部会
- 8月20日 熊本視覚サポートネットワーク「みるくまネット」令和4年度総会→村上会長オンライン参加
- 8月31日 第68回全国視覚障害女性研修大会（福島大会）→東女性部長オンライン参加
- 9月 4日 ・県視協福祉大会実行委員会
・第77回全国視覚障害者福祉大会（熊本大会）第2回執行部会
- 9月18日 第68回全国視覚障害青年研修大会（福岡県大会）兼第34回九州盲青年研修（福岡県）大会→米村青年部長オンライン参加
- 10月 2日 第35回九盲連あはき研修会（鹿児島大会）→板橋職業対策部長、島田組織対策部長オンライン参加
- 10月 7日 日視連全国団体長会議→村上会長オンライン参加
- 11月27日 ・県視協福祉大会
・第77回全国視覚障害者福祉大会（熊本大会）第3回執行部会
- 12月 4日 「信GO」体験会→篠原常務理事参加
- 12月 6日 肥後銀行点字カレンダー贈呈式
→村上会長、篠原常務理事出席
- 12月 9日 KKT点字カレンダー贈呈式→村上会長、篠原常務理事出席
- 12月11日 ・地区長部長会
・第77回全国視覚障害者福祉大会（熊本大会）第1回実行委員会
- 令和5年
- 1月29日 ・第77回全国視覚障害者福祉大会（熊本大会）第2回実行委員会
・九盲青年研修会（熊本）第1回実行委員会
・新野 征様弔問
- 2月15日 日視連全国団体長会議→茂村事務局長オンライン参加
- 2月19日 第76回九州盲人福祉大会（佐賀県大会）
→村上会長、鹿瀬島福祉対策部長、森体育部長出席
- 3月 6日 NTT西日本熊本支部点字電話帳贈呈式
→村上会長、篠原常務理事出席
- 3月12日 法人理事会
- 3月22日 身障連第2回理事会→村上会長、篠原常務理事出席

